

お互いに切磋琢磨し、励まし合うことができる環境が整っている

R. M.

慶應義塾大学 文学部 進学
水戸市立 五軒小学校 卒業

茨高の国際教養コース(GLAC)では、高2次に約半年間の留学カリキュラムがあり、それぞれホームステイをして、異文化に触れることができます。そこで培った経験は英語力の大幅な向上はもちろん自律した精神を獲得することができます。また、国際教養コース独自の授業である協働探究ゼミでは、それぞれやりたいことを企画して実行するというシステムがとられており、私は子供たちの成長を手助けしたいという思いから「メンター班」というグループに所属して、小学校でパラリンピックスポーツを実践し、教えるという活動をしました。そこでは子供達に学びを与えるという側面だけではなく、私たち自身も社会的学びを得ることができました。そして、もう一つ独自の授業である「PE」(Practical English)では、授業全てが英語を通して行われ、時事問題に関するディスカッションや、ロールゲームなどを行い、お互いの考えを共有し、自信を持って意見を発するという力を養うことができました。以上のように、国際教養コースでは、高3までに英検準1級以上の卓越した英語力を多岐にわたる方法で確実に養うことができます。そして、高い能力だけではなく、特殊な経験も豊富に得られることから入試にもかなり大きいアドバンテージを得ることができます。

私は高校では、JRC 部という青少年赤十字の一員として、様々なボランティアに参加しました。例えば、水戸黄門漫遊マラソンなどで選手たちのサポートに従事したり、福島に行き東日本大震災の当時の状況などを詳しく学び発信したり、海岸などの清掃活動をしたり、水戸街中フェスティバルでの役員の方のサポートをしたりしました。たくさんのボランティアを通して、人々の笑顔を見ることが日々のモチベーションとなり、元気をもらうことができました。本当に良い経験だったと思います。

茨中・茨高の良いところはたくさんありますが、その中でも遊び・勉強の両立が完璧になされているところです。遊びというのは、生徒が思いっきりストレスを発散できる体育祭・文化祭・クラスマッチ・遠足・部活動などのことで、これらはどちらも生徒が満足できるようにきちんと計画・実行がされていて毎度喜びの笑顔で満ち溢れています。一方で勉強に関しても、お互いに切磋琢磨と高め合い、励まし合うことができる環境が整っていて、滅多にないくらい特別な学校だと思います。

大学入学後は、外国語を専門の教授から学び、一所懸命に勉強を継続し、世界と日本を繋ぐ架け橋になりたいと思っています。このような Voice に載せていただく機会を得られたことは、周りの人の温かい支えと自分の選択の結果だと思うので本当に光栄ですし、頑張って良かったなと心から思います。これからも日々努力したいと思っています。